

令和7年度

知事と市町長の円卓対話

南伊勢町資料



宿田曾港まつり



水産センター



第44回全国豊かな海づくり大会～美し国みえ大会～
海上歓迎・放流行事会場【宿田曾漁港】



キャンプ施設しゅくたそ笑楽校



宿田曾大運動会

第44回 全国 豊かな海づくり大会

うま
～ 美し国 みえ大会 ～

本大会スケジュール

<本大会>

日程：令和7年11月9日（日）

場所：志摩市阿児アリーナ（式典行事）

南伊勢町宿田曾漁港（海上歓迎・放流行事）

内容： ■ 式典行事及び海上歓迎・放流行事の実施
■ 当日は本大会ほか、県内各所で関連行事を開催予定



令和6年度 第43回全国豊かな海づくり大会 大分会場 提供：大分県

<豊かな海づくりフェスタ（プレ放流・漁船パレード）>

日程：令和7年5月31日（土）

場所：南伊勢町宿田曾市場

- 内容：
- 主催は三重県、南伊勢町実行委員会は協力
 - 全体としては、プレ行事（海上歓迎・放流行事）やステージイベント、企画展示や各種体験、飲食ブースの出店を実施
 - 出店ブースは南伊勢町産品を中心に町内事業者で運営（商工会）
 - 大会ナビゲーター（浅尾美和氏）によるトークショー及びビデオメッセージ
 - 志摩市・南伊勢町で共同制作した大漁旗を掲げての漁船パレードプレ



<ゆた海150日前：全国一斉海浜清掃旗揚げ式>

日程：令和7年6月12日（木）

場所：南伊勢町宿田曾漁港及び周辺

- 内容：
- 主催は南伊勢町・三重県実行委員会
 - 例年放流会場となる市町で開催される記念行事の一環
 - 南伊勢町クリーン作戦（環境生活課）と共同開催

備考：※海と渚環境美化・油濁対策機構との共催



【150日前：6/12(木)】

<ゆた海100日前：水産センター一般公開>

日程：令和7年8月2日（土）

場所：南伊勢町水産センター（宿浦）

- 内容：
- 主催は南伊勢町水産センター
 - 例年小中高の夏休み期間に実施している水産センター一般公開を実施
 - 施設内見学やさかなタッチプール、センター事業説明など

備考：※連携協定したリージョナルフィッシュがブース出展による協力予定

※国立水産研究・教育機構（中津浜浦）との連携検討中



【100日前：8/1(金)】

<ゆた海50日前：南伊勢フェスタ2025 in 三重テラス>

日程：令和7年9月12日（金）・13日（土）

場所：三重テラス2Fイベントスペース（東京都）

- 内容：
- 主催は南伊勢町(観光商工課)、町実行委員会は共催
 - ふるさと納税寄附者や首都圏付近の出身者等に対して、返礼品の紹介や海づくり大会PRを実施
 - 返礼品の試食PR、振る舞い、まぐろ解体ショー(動画)
 - 20周年となる町政説明などにより町の近況を報告



備考：※解体ショー用まぐろは柵等にしてふる納返礼品として活用 【50日前：9/20(土)】

<ゆた海1ヶ月前：南伊勢町町政20周年記念大会>

日程：令和7年10月5日（日）

場所：南伊勢町町民文化会館

- 内容：
- 主催は南伊勢町(総務課)、町実行委員会は共催
 - 町政20周年を記念して町民表彰式典等を実施
 - 海づくり大会開催記念としてゲストによるトークショー等も併せて実施
 - 屋外にて町産品や飲食ブースを出店予定



備考：※ゲストは調整中

【1ヶ月前：10/9(木)】

令和7年11月9日 豊かな海づくり大会 本大会

<ゆた海大会当日：ゆた海フェスタ(同時放流)>

日程：令和7年11月9日（日） ※大会当日

場所：奈屋浦漁港

- 内容：
- 主催は南伊勢町実行委員会
 - 町内保育園児・小中生徒（優先）参加の放流体験イベントを実施
 - 一般公募も検討（約300名程度参加者）
 - 参加者には海づくり大会記念品



備考：※関連イベントを県内5箇所【桑名市・津市・志摩市・南伊勢町・尾鷲市】で同時開催

<ゆた海開催記念年 締めくくりイベント>

名称：みなみいせまつり2025

日程：令和7年12月20日（土）or 27日（土）

場所：南伊勢町宿田曾漁港

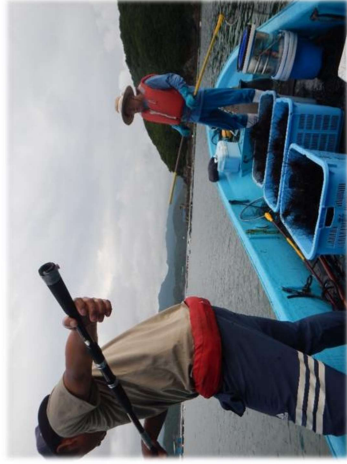
- 内容：
- 主催はみなみいせまつり実行委員会
 - 例年通りみなみいせまつりを実施、内容はみなみいせまつり実行委員会にて決定



「南伊勢町が取り組む藻場の再生や害生物の駆除等の保全活動」

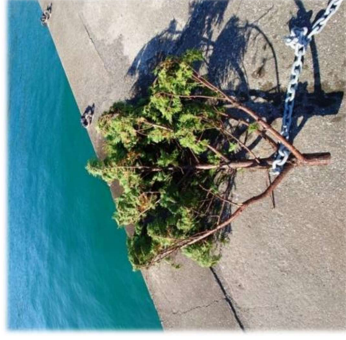
①水産多面的機能発揮対策事業

活動内容：ウニ除去・海藻種苗の投入（令和5年現在 5活動組織）



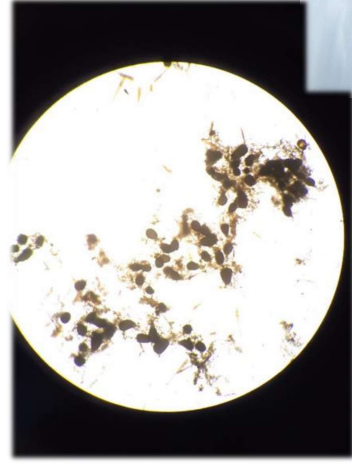
②南伊勢町漁場環境機能整備事業

活動内容：アオリイカ産卵床設置・ウニ除去・藻食性魚類除去（令和5年現在 6活動組織）



③産学官連携によるヒジキ場の再生

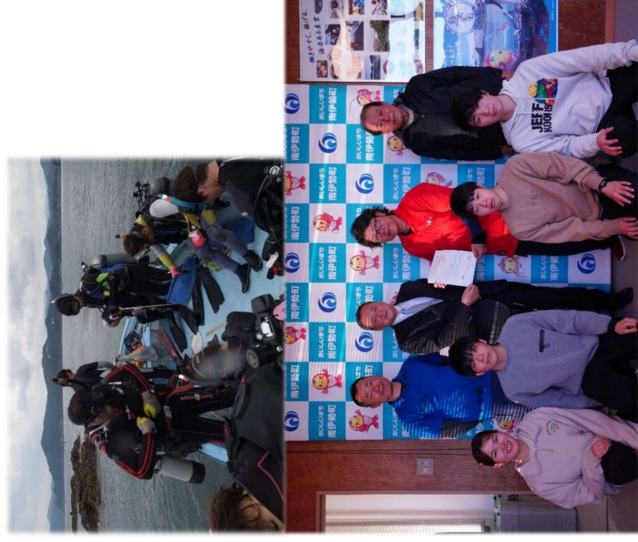
この事業は平成23年度より始まり、地域の漁業者、漁協、大学、地域の企業、南伊勢町との産学官連携で行っています。手法としてはヒジキが卵を形成する時期の5～6月に近くのヒジキ場から成熟した母藻を採取し、種苗センターの水槽内で卵を放出させます。この卵をジョウロで岩に散布します。この取り組みを漁業者らと連携して行うことにより、地域の活性化や新産業の創成につながるものと期待します。



④NPO法人による民間企業助成金事業

活動内容：ダイバーによるウニ駆除

藻場再生により固定された二酸化炭素（CO₂）を
Jブルークレジットにより販売、販売益による持続可能な
活動で、生態系の回復への取り組みを行う。
（現在販売実績 2社 2,0t）



三重県南伊勢町で 水産業の担い手育成事業「TRITON PROJECT」が スタート

南伊勢町、三重外湾漁協、漁師団体、漁船IoTベンチャー企業が一体となり、
持続可能な水産業の実現を目指します。

三重県南伊勢町で、南伊勢町、三重外湾漁業協同組合（以下、外湾漁協）、一般社団法人フィッシャーマン・ジャパン（代表理事：阿部勝太、以下FJ）、株式会社ライトハウス（代表：新藤克貴、以下LH）が連携して、水産業の担い手育成事業「TRITON PROJECT」をスタート。

担い手不足を解決するチームを立ち上げ、水産業の求人情報の発掘と発信、漁師希望者の受け入れ体制の整備を行うことで、持続可能な水産業の実現を目指します。



三重県南伊勢町で進める水産業の担い手育成の取り組み

① 担い手不足を解決する地域でのチームづくり

南伊勢町水産農林課、南伊勢町まちづくり推進課、外湾漁協、FJ、LHが連携し、担い手不足の解決などに取り組む「チーム TRITON 南伊勢」を立ち上げ。漁師希望者と地元の漁師の調整役となる漁業・漁村活性化コーディネーターとして、FJの社員が南伊勢町の集落支援員の委嘱をうけ、もう1名が地域おこし協力隊の委嘱をうけて活動します。

② 水産業の求人情報の発掘と発信

南伊勢町の地域おこし協力隊と集落支援員が、地元漁師へのヒアリングを行い、地域の魅力や求人に関する情報を収集します。それをもとに求人コンテンツを作成し、水産業特化型求人サイト「TRITON JOB」に掲載、人材募集を行います。すでに養殖業を営む事業者の求人が決定しています。

③ 漁師希望者の受け入れ体制の整備

チーム TRITON 南伊勢では、漁師希望者がいつでも気軽に相談することのできる問い合わせ窓口を設置しています。また、漁師希望者が一定期間、漁師体験することができる研修（短期・長期）を開催するほか、受け入れ漁師と漁師希望者に対して指導料や人件費を支援する制度も整え、短期研修「南伊勢漁師塾 × TRITON SCHOOL」を実施します。



「TRITON PROJECT」

＜背景＞

三重県南伊勢町の水揚げ量は県内1位。町内には10の漁港施設があり、中でも最も大きい奈屋浦漁港には1日に500t以上の魚が水揚げされることもあります。市場にはまき網や定置網で獲るサバ・イワシをはじめ、養殖マダイや養殖マグロも並ぶ、全国屈指の漁業の町です。

そんな南伊勢町ですが、かつては32,000人いた町民が11,000人まで減少し、漁業者の減少・高齢化が進んでいます。町としても、外湾漁協としても、これまで漁業を支えてきた漁業者の技術を継承し、町の漁業を維持・発展させていくため、若者の確保が急務となっていました。

そこで、宮城県石巻市を中心に担い手育成に取り組み、新規就業者を迎えた実績のあるFJ（石巻市内で7年間に40名以上の漁師が誕生）に働きかけ、2022年4月に「稼げる産業・担い手づくりスタートアップ事業」を南伊勢町からFJに委託。南伊勢町、外湾漁協、FJ、LH（FJと業務提携を締結）が一体となって担い手育成事業「TRITON PROJECT」に取り組むこととなりました。

＜今後の展開＞

年度内に2回短期研修を予定しています。長期研修では、受け入れ人数3人/年を目標として、受け入れ先の発掘・整備を行います。また、今回の連携は担い手育成事業にとどまるものではありません。持続可能な水産業を実現すべく、漁船IoTベンチャー企業のLHとともに水産業のDXに取り組むほか、水産加工会社へのインターンシップ制度の導入、磯焼け対策、海産物の販路開拓、水産系の大学との連携も進めます。

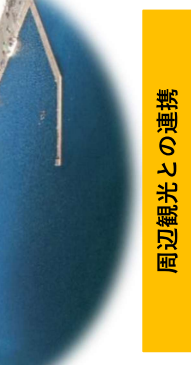


南伊勢町による海業へのアプローチ

概要

- 南伊勢町では、近年、海面養殖の現場や漁が体験できる漁業体験、シーカヤック等の新たな海のアクティビティ、渚泊やグランピング等の宿泊施設を運営する民間事業者が増加傾向にあり、町の地域資源を活かした観光の魅力創造に寄与している。
- 漁師が取組む藻場再生活動を継続的に支援し多様なメニューを構築することで、藻場再生と地域資源である海と漁村を活用した体験型観光による海業の振興（地域のにぎわいと所得向上、新規雇用）により、「まちの賑わいを生み出す拠点づくり」の創出を図る。
- 町内漁港に拠点を定め、町内の様々な地域資源である産業コンテンツ等の連携と観光交流を図るため、水産物の直販施設、バーベキュー広場、漁業等の体験教室、水域を活用したマリニアクティビティ等の検討を進め、積極的に来訪者の受け入れによる水産物の消費増進と交流促進を図る。

海業の取組概要



観光施設等

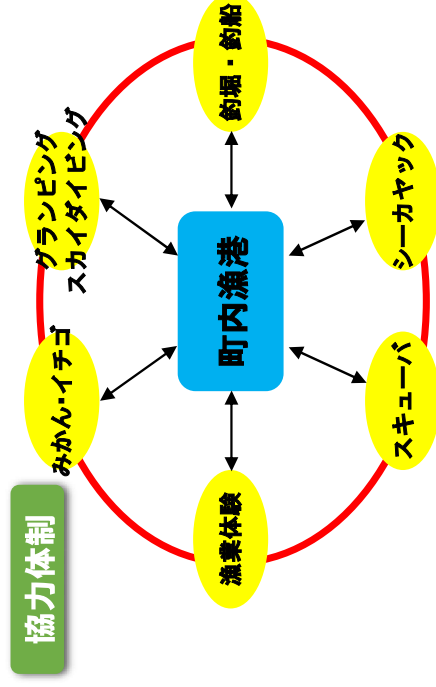
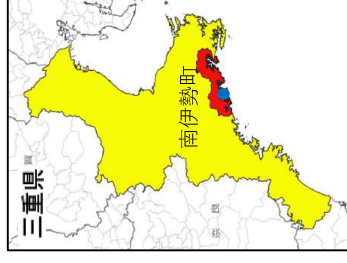


効果

- 観光入込客数の増率：125% 教育旅行の受入人数：1,000人 ○水産加工品の商品開発：5商品
- 体験コンテンツ等の造成数：5件 ○新たな雇用創出人数：50人

<令和7年度>

- ・連携する関係者間での協議
- ・連携した体験プログラムの検討



【事業主体】 南伊勢町、三重外湾漁業協同組合
 【連携企業等】 南伊勢町商工会、南伊勢町観光協会
 一社法人フィッシュヤーマンジャパン
 NPO法人えがおつなげて、三重大学

スケジュール